

2015/10/3

<The 8th Asia-Oceania Conference on Obesity (AOCO 2015)>

名古屋宣言 2015

英文に対応する和訳

[本文]

肥満症(obesity disease)について、国際的な概念を提唱する。肥満症とは、肥満に起因ないしは関連する健康障害を合併し、医学的に減量を必要とする病態をいい、疾患として取り扱う。すなわち、肥満の中から肥満症を取り出すことにより、健康障害を伴わない肥満と、健康障害を伴う肥満症とを区別する。健康障害を伴う肥満症は、減量によって合併している健康障害の改善が期待できることから、治療医学の適応となる。健康障害を伴わない肥満も、将来起こり得る様々な疾病のリスクファクターとなるため、予防医学の対象となる。

[解説]

肥満の判定は BMI で行われる。これまで、肥満はリスクファクターか疾患かという議論があったが、全ての肥満を一律に論じることは科学的に妥当ではないことが明らかとなってきた。世界各国・各地域で実施されている様々な研究の発展により、肥満と肥満症を区別することの有用性を示す知見が集積しつつある。肥満と肥満症はともに増加している。食事療法・運動療法を含む生活習慣の改善による減量を基本として、医療経済的な視点から予防医学的な介入を行う群と、医学的に治療すべき群とを区別することは重要である。

今後、アジア・オセアニア肥満学会は、肥満症の概念を国際的に普及させることで、肥満症を有する個人個人に対して適切な治療が行われるように活動するとともに、新たな治療法の開発を推進する。また、現時点では健康障害を伴わない肥満は、その後の肥満の進行や過剰な内臓脂肪蓄積、加齢などにより、肥満症に移行する可能性があることを社会に向けて積極的に発信する。特に、予防医学的な介入を促進するために、内臓脂肪の蓄積の簡便な指標としてウエスト周囲長の測定が重要であることが一般住民に広く認知されるよう啓発活動を進める。

このような活動により、健康寿命の延伸と医療資源の有効な活用、肥満と肥満症の蔓延がもたらす国際社会への負担の軽減が期待される。

<参考：肥満症(obesity disease)に関する概念図>

